

函館電子新聞

～有料サイト特別公開～
PDFニュース特番



千代台運動公園の一角にある函館市青年センター。
「西尾グループ利権集団」の拠点になる可能性？

「仲間」に対し3年間に約1億2千万円！ 2年前の市長選で自分の後援会・選対の大幹部・側近として仕切った「流れ者」浪人「同然の者ら」に 公募方式で青年センターの指定管理者に指定。委託料として年間4千万円、大半が人件費

西尾市長(市政)市業務の 外部委託をいいことに 露骨な便宜(利益)供与 市政の私物化／進む「西尾グループ利権集団」の形成！

市業務の外部委託（アウトソーシング）をいいことに、2年前の市長選で自分の選挙の後援会・選対を参謀・側近として仕切るなどし、またブログなどを通して根も葉もない誹謗・中傷を執拗に繰り返した「流れ者」「浪人」同然のグループらに、食い扶持（くいぶち）的に委託料として3年間で約1億2千万円もの税金計上を決定し、この4月から初年度分としてすでに約4千万円を拠出へ。

こんな露骨極まりない、税金を食い物にする未だかつてない「利益供与」が西尾市長主導のも
と函館市政で行われている。ありもしないことをでっち上げて新聞・テレビを巻き込み、「異常な騒ぎ」を起こし、「反乱」「函館市政乗っ取り」となった西尾選挙で中軸を担った彼らグループの意図が「初めから金目
当てであろう」ということは指摘されてきたところであるが、これが今や現実的に、しかも露骨に具体化されてきている。

函館電子新聞 PDFニュース特番

(3)

今回（平成21年4月の新年度から）これを函館市亀田青少年会館とともに、同文化・スポーツ振興財団から取って切り離したもので、表向きの理由は「青少年団体グループの育成を図る」（同財団）などとしている。

市から文化・スポーツ振興財団に「アウトソーシング」されていたものが、別個他の市民団体に「アウトソーシング」された格好になった。

市教委など関係筋の話によると、昨年公募され、これに3者（社）が応募し、結果として、函館市青年サークル協議会グループが指定管理者に選ばれたとい、このグループの中心団体はNPO法人として設立された函館青年サークル協議会で、代表者は丸藤競氏（45歳）。

丸藤氏は札幌出身で、2005年に「NPOサポートはこだて」を設立し、07年の地域交流まちづくりセンター（旧丸井今井跡、旧市末広町分庁舎）のオープンに伴い、NPOサポートはこだてが同センターの指定管理者になり、同センター長を務めていることで知られる。

この中で星野氏（60歳？）のビットアンドリンクなる会社はホームページの企画・制作、企業や自治体の情報発信コンサルティンクなどを行っている会社とされ、星野氏は西尾氏の大学時代の仲間（革マル連合赤軍派といわれるが）で、市の第3セクター、はこだてティエムオーの大門横丁「函館ひかりの屋台」の開設などに絡んで関東方面から函館に流れ込んで函館に住み着き、2年前の市長選で西尾氏擁立を画策・主導し、後援

会副会長（実質的なトップ）に座って参謀を担った西尾市長側近中の側近と目されている。ブログを開設し、新聞紙面などをつまみ食いし、名誉毀損まがいに騒ぎまくった張本人でもある。

西尾市政誕生とともに、大手を振るって市に頻繁に出入りし、井上博司前市長が西尾氏を相手取って提訴し裁判中の損害賠償請求訴訟では被告側・西尾氏サイド「個人代表」も担っている。

函館における会社所在地は

転々とし、現在は海岸町となっており、今回の青年センターの指定管理者選考で出てきたビットアンドリンクの「決算書の内容はとてどもとてどもというものであった」（市幹部筋）という。

「関東方面などでは仕事がうまく行かなかったようで、西尾氏が企画部長時代当たりから函館に流れ込んだ」（事情通）「東京のかつての仲間たちの評判は散々なものがある」（同）との話も聞かれる。

このビットアンドリンクには、はこだて未来大の卒業生で、在学時代に大門まつりを立ち上げ、市長選では西尾選挙の青年グループ支持者の先頭に立った仙石智義氏が社員として入っているとされ、同氏は上記の函館市青年サークル協議会の副理事長（事務局長）に就任、「今回（我々は）青年センターと亀田青少年会館の2つを取った」（市関係者は亀田は違うとしている）などとはしゃぎ回っているという（関係者筋）。

青年センターの指定管理者の選定に当たっては青年サークル

加えて、青年センターのセンター長には自称フリーライターの名乗る（長期低落傾向顕著な東京紙の道内版などに寄稿とか何とか）、札幌出身のこれまた「流れ者」佐々木泰弘氏（36歳）なる者が座り、悦に入っている。

同氏またブログ人間で、市長選中、星野氏らと歩調を合わせ、騒ぎまくった張本人の一人で、西尾市政誕生とともに表舞台に登場。開港150周年記念事業の実行委員会では「ハコダテ150編集スタッフ」の編集長を務めているなどと有頂天になっている。

ときに、開港150周年記念事業のPR部隊「ハコダテ150編集スタッフ」には佐々木氏ら各種ブログ主宰者20数人前後が参画しているが、税金投入の記念事業の公式HPにもかかわらずほとんどが氏名をまともにも名乗らず、公私混同甚だしいものとなっている。

協議会グループのほか、セントラル警備（株）と（株）北海道コ

何のためのアウトソーシング。財団運営よりも逆にコスト高に／「一番おいしくところもらい、山分け」？ 市政や外郭団体に刺さり込み、税金を食い物にして生計を立てる意図明白？

函館電子新聞 PDFニュース特番

(4)



西尾市長の独断専行、市政の私物化進み、モチベーション低下著しい、函館市。市役所とは一体誰のものか。

配点を設け、7人の選定委員による評価・採点によって、青年サークル協議会グループが462点、ほか2者が439点、361点であったとしている。

市が得意とする公募―選考委員による業者選定であるが、選考委員7人のメンバーは市から企画部長、総務部長、財務部長の3人、ほか4人が外部学識経験

者などで、青年センターという青少年教育の側面を持った施設の管理・運営問題であり、管轄が市教委であるにもかかわらず、担当部長がメンバーになつていなく、また資料の作成などすべからず市が揃え、配点等々、「相変わらずデキレースに等しいものであった」といわれている。

選考から外れた北海道コンシェルジュは、地域が大きく掲げ、期待された本業の移住支援事業がうまく行かず、事業維持の観点から委託事業の受注を望んだが、これも頓挫し、撤退止むなしに至った。

核心部分の委託料が年間約4千万円（平成21年度3千966万9千円）だということに關し大変な驚きの声が上がっている。市予算案によると青年センターの使用料見込みは1、987件、276万7千円に止まる。この使用料は市に入るが、一方で委託料の約4千万円は「一部が光熱費をはじめとする管理・維持費で、残りほとんどが人件費（市教委関係筋）としている。約3千560万円が受付業務などに携わる人件費としての委託料というのである。

昨年まで管理・運営してきた文化・スポーツ振興財団の話では、青年センターには市職員や嘱託、パートら6人を張り付けていたとし、これらに基づいて委託料として年間約4千万円を

函館電子新聞 PDFニュース特番

(5)

はじき出したようだ。しかるに管理・運営に6人が必要として、単純計算で1人当たりの人件費はざっと5百数十万円から6百万円近くということになる。函館ではかなりの高額なわけで、この点、市職員の平均給与が年収約650万円であることからしてなるほどとみられるが、財団が嘱託やパートを含めて6人を配置していたことを考えれば、委託料としては相当高い計算にもなる。

これでは一体、外部委託する意味があるのか。財団に代わる新たな指定管理者の指定によって逆にコスト高になっているのではないかとの疑念だ。目に見えて経費ダウンとなるならいざ知らず、逆に割高になっていると言われても仕方がない。お手持りの破格の委託料という見方もあながち見当違いではないだろう。

この年間4千万円、3年間で約1億2千万円に青年サークル協議会と星野・ビットアンドイン、フクザキ管材が代表団体として食いつき、それぞれから派遣された6〜7人、あるいは10人前後のスタッフがぶら下がって人件費を分配している格好と目されている。市政や外郭団体に刺さり込み、税金を食い物にして生計を立てようという意図が見え見えできている。それゆえ、このことを知る

に、「これほどおいしい指定管理者の指定受注は他にないだろう。施設利用の受付など業務内容、やることは決まっており、難しいことは何もない」とか、「一番おいしいところを星野氏らにやったのである」とか、「市議会関係者周辺」という見方、「経費を2割ほどにみても3千2〜3百万円が人件費で、これが3年間自動的に入ってくる。せいぜい出さることと言えば、センター長お得意のブログなどで青年センター利用の楽しさみたいなことを流すだけで、あとは労せず給料がもらえる。片手間で年収5〜6百万円にもなるのだろうから笑いが止まらないのではないのか」(市内経営者)などの話になっている。

市のある幹部中枢は「星野氏は遠慮すべきだ」と語る。一体、何のためのアウトソーシング、指定管理者の指定なのか。公募、そして日当5千円の学識経験者なる外部の人間を混じり込ませての点数をつけての選定ということで当然表面向きは体裁を整えている。

こういったやり口はすべからず西尾氏得意の手法で、「結論、結果はやる前からほとんど決まっている」(市内外の事情通)。西尾氏が助役時代に福祉の有料老人ホームでもこのやり口を導入し、自らが選考協議会の議長になって点数を高くつけた上

位4法人に許認可を与えたケースもあった。

この時の点数トップはコムソで、広く承知のようにこの会社はほどなくして大々的な不正が発覚して辞退し(会社自体破綻同然となった)、ほか大盤ふるまいの定員枠を与えた2事業者も約束期間中に設置できず、選定結果のデタラメぶりが明らかになった。この間、対象外とした地元業者らは問題なく事業を続けていた。

西尾市長の市政私物化の原点は、ウソをでっち上げ、できもしないことを言い並べた選挙期間中に、広言した「権力を取れば何でもできる」にあり、能力や先見性などが無いにもかかわらず、権力亡者の極めて権力主義的なうぬぼれに起因している。

そこには思想的な大きな欠陥が垣間見え、結果が全てを物語っているように、「函館の状況・現実は何も良くなっていない、逆に加速度的に悪くなっている」。

それと、西尾グループ利権集団の市政を食い物にする市民活動とかまちづくりとは一体何であるのか。ブログなどに熱中していることが市民活動・運動であるのか。その実態はあまりにも自己中心的、自己満足の世界であって、幼稚でその実態は悪質と言わざるを得ないだろう。